

性に関する指導についての実態調査と これからの性に関する指導の在り方の検討

大川 尚子
(教育学科養護・福祉教育学専攻)

奥村 菜月
(京都市立東山総合支援学校)

田之上 啓太
(京都市立大宅小学校)

A市教育委員会主催の研修会に参加した教員を対象に、性に関する指導について調査したところ以下の結果を得られた。①96.0%の教員が性に関する指導を行っていた。②教育内容は、思春期の体の変化や命の誕生など教科書に書かれている内容が多く、性加害や性行為など教科書に書かれていない内容は実施している教員が1割以下であった。③教員が希望している教材は、パワーポイントや指導案、ワークシートであり、その他の記述で、外部講師の紹介リストという回答が見られた。④性に関する指導を行っていない教員の理由は、「どう教えていいかわからない」などの教員自身の問題と「他のことを教える時間や業務で手一杯である」という教員の環境の問題が挙げられた。⑤教員が性に関する指導を実施できるようなDVD教材や指導案、パワーポイントが求められていた。

キーワード：性教育，教員，実態調査

1. 研究の背景と目的

日本の性に関する指導の歴史は、1947年1月文部省社会教育局が各都道府県あてに出した「純潔教育の実施について」¹⁾という通達からはじまる。山本ら²⁾は性に関する指導の歴史の変遷について文献検討を行ない、わが国の性に関する指導は道徳的な側面が強調された時代、生理的側面が強調された時代を経て、現在に至ると整理した。

1999年に文部省が「学校における性に関する指導の考えかた・進め方」³⁾を刊行し、掲げた性に関する指導の基本的な目標は、「男性または女性としての自己の認識を確かにさせる」、「自己尊重、男女平等の精神に基づく豊かな男女の人間関係を築くことができるようにする」、「家庭や様々な社会集団の一員として直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てる」の3つであった。そして、当時はHIV・AIDSが課題であったため、HIV・AIDSの予防教育が中心であった。

しかし、2000年に「思春期のためのラブ&ボディBOOK」⁴⁾の回収・絶版をはじめとする性に関する指導のバッシングが行われた。そして、2003年に東京都の七生養護学校が過激な性に関する指導を行ったと、当時の教職員が嚴重注意処分を受ける事件⁵⁾が起きた。七生養護学校は、性器の名前が入った「からだうた」や性器の模型を教育に使用していたことが過激であるとされた。この事件以降、各学校で使用していた家族人形を廃棄せざるをえなかった。これらのような性に関する指導のバッシングは、「寝た子を起こすな」という考え方のもとで行われており、性に関する指導は学校現場から遠ざけられ、下火となった。

近年、新たな性感染症の出現や若年感染者の増加、若年層の妊娠・出産・人工妊娠中絶の増加が問題として挙げられている。その背景には、初交年齢の低年齢化や情報化社会で子どもたちが気軽に性情報を手に入れられる環境となったことが挙げられる。性感染症の最近の動向は、

減少傾向となっているが、現在も15歳から19歳の感染者が一定数いる⁶⁾。

2001年より厚生労働省が掲げている「健やか親子21」政策⁷⁾では、性に関する指導について、男女の関係や相互理解の必要性を説明するとともに、避妊方法等も含めた説明も行ない、生命の尊さや自分たちが将来、子育ての当事者になることの自覚を促すことが必要であると述べられている。

また、日本学校保健会は「学校保健の動向—平成23年度版⁸⁾」の中で、「性教育」という用語の定義があいまいなまま使用され混乱している現状を踏まえ、2次性徴の発現や生殖機能の成熟、受精や妊娠、性器（生殖器）の構造や月経、射精、性行動、性感染症など直接「性」に関連する事柄を内容とする狭義の「性教育」に加え、生命尊重、性行動に関わる危険（リスク）を認識し、回避する態度や望ましい人間関係を築く能力の育成などその基礎となる教育を含む広義の概念としてとらえ、今後は「性に関する教育」と呼び、その推進を図ることとすると説明している。

2016年に文部科学省も、中央教育審議会答申で、性に関する指導について、発達段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり望ましい人間関係を構築することなどを重視し、これらに関連付けて指導すること、また、学校全体で取り組み、家庭の理解を得ながら指導するとともに、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行なうことができるように指導の在り方の改善を図る⁹⁾と述べている。

本研究では、「性に関する指導」の研修会に参加した幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員を対象にアンケートを行ない、性に関する指導の具体的な実態調査をし、今後の性に関する指導の在り方を検討した。

2. 対象と方法

(1) 対象

2019年8月に開催されたA市の「性に関する指導」についての研修会に参加した幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象とした。

(2) 方法

性に関する指導について無記名自記式質問紙調査を実施し、299人から回答を得た。調査項目は、対象者の属性（所属校種・職種・年齢・教職経験）、性に関する指導の実施の有無、実施内容、実施理由、実施時間、指導者、教材等である。

(3) 倫理的配慮

研究に先立ち、研究の目的、概要、回答は自由であること、プライバシーの保護、データ管理は厳重に行なうこと等の倫理的配慮について研修会を開催するA市の教育委員会に、口頭と文章にて説明した。教育委員会の承諾を得た後、教員に説明を明記した協力依頼文を調査票とともに配布した。調査票に回答することをもって、協力への同意とした。調査で得た個人的データは、厳重に保管し匿名性を保持できるように記号化しデータ処理を行った。

3. 結果

(1) 回答者の属性

①校種

幼稚園1人(0.3%)、小学校192人(64.2%)、中学校88人(29.4%)、高等学校12人(4.0%)、特別支援学校0人(0%)、未回答7名(2.3%)であった。

②職種

養護教諭224人(74.9%)、一般教諭54人(18.1%)、保健体育教諭16人(5.4%)、無回答が5名(1.6%)であった。

③年齢

20代66人(22.1%)、30代90人(30.1%)、40代54人(18.1%)、50代71人(23.7%)、60代13人(4.3%)、無回答が5名(1.6%)であった。

④教職経験

1～5年66人(22.1%)、6～10年90人(30.1%)、11～15年54人(18.1%)、16～20年

71人(23.7%), 21~30年13人(4.3%), 無回答が5名(1.6%)であった。

(2) 性に関する指導を実施している教員の結果

①実施の有無

「実施している」が287人(96.0%), 「実施していない」が8人(2.7%), 無回答が4人(1.3%)であった。

②実施内容(複数回答)

最も多い順に, 「思春期の体の変化」230人76.9%, 「命の誕生」206人(68.9%), 「初経・月経のしくみ」199人(66.6)%, 「思春期の心の変化」187人(62.5%)であった(表1)。

③実施理由(複数回答)

「子どもたちの健康にとって必要なことだから」231人(77.3%)が最も多く, 次いで, 「授業で実施する内容で教科書にあるから」177人(59.2%), 「学校の状況にとって必要なことだから」65人(21.7%), 「子どもたちが興味をもっていたから」33人(11.1%)であった。その他では, 「子どもたちがこれから生きていく上で正しい知識を身につけてほしいから」, 「ゲストティーチャーの授業として毎年取り組んでいるから」, 「宿泊行事前に生理用品を持ってくるよう伝えるため」, 「親からの相談があったから」, 「子どもたちの命を守るために必要なことだから」があげられた(表2)。

④実施時間(複数回答)

最も多い時間は, 体育(保健体育)の時間で221人(73.9%), 次に総合的な学習の時間と特別活動が共に169人(56.5%)であった。その他では, 「道徳の時間」, 「健康診断の時」, 「家庭科」, 「各教科」, 「全ての教育活動」があげられた。

⑤授業者(複数回答)

最も多い授業者は, 学級担任229人(76.6%)であった。次に養護教諭209人(69.6%), 外部講師104人(34.8%), 保健体育科教諭71人(23.7%)であった。その他として, 学年教員, 学生ボランティアなどさまざまな人が授業を行っていた。

⑥使用教材(複数回答)

教科書206人(68.9%), 視聴覚教材204人

表1 実施内容

教育内容	人	%
思春期の体の変化	230	76.9
命の誕生	206	68.9
初経・月経のしくみ	199	66.6
思春期の心の変化	187	62.5
命の大切さ	176	58.9
初経・月経の手当て	163	54.5
射精・精通のしくみ	146	48.8
身体の清潔	123	41.1
エイズ	94	31.4
性感染症	82	27.4
出産	71	23.7
妊娠	69	23.1
男女交際	68	22.7
日常生活のルール	63	21.1
性の多様性	62	20.7
コミュニケーション	61	20.4
デートDV	48	16.1
人間関係	45	15.1
身だしなみ	40	13.4
避妊	40	13.4
射精・精通の後始末	37	12.4
性被害	35	11.7
人工妊娠中絶	34	11.4
性情報	30	10.0
男女の性の役割	29	9.7
性行為	27	9.0
自立と共生	27	9.0
性加害	24	8.0
将来・キャリア	17	5.7
マスターベーション	11	3.7
その他	7	2.3

表2 実施理由

実施理由	人	%
子どもたちの健康にとって必要なことだから	231	77.3
授業で実施する内容で教科書にあるから	177	59.2
学校の状況にとって必要なことだから	65	21.7
子どもたちが興味をもっていたから	33	11.0
その他	16	5.4

(68.2%)が多かった。使用していないと回答した人が0人だったため、なにかしら教材を用いて性に関する指導を行っていることがわかった。その他では、「たまごクラブ」の妊娠過程の胎児の写真、妊婦さん本人などがあげられた(表3)。

表3 使用教材

使用している教材	人	%
体育(保健体育)の教科書	206	68.9
パワーポイント、DVD、TV録画等の視聴覚教材	204	68.2
赤ちゃん人形等の教材	112	37.5
自主教材	104	34.8
講師作成の資料	81	27.1
教科書と教科書以外の副読本(パンフレット等)	65	21.7
妊婦体験キット	48	16.1
教科書以外の副読本	24	8.0
その他	9	3.0
特に使用していない	0	0.0

⑦希望教材(複数回答)

パワーポイントによる資料が231人(77.3%)と最も求められていることがわかった。次いで、指導案195人(65.2%)、ワークシート160人(53.5%)、リーフレット88人(29.4%)であった。現在のものでも充分だと考えていない人が

285人(95.3%)であった。その他では、「赤ちゃん人形などの体験ができるもの」、「時代に合ったDVD」、「外部講師の紹介リスト」、「初めての人でも取り組めるような教材」、「動画やストーリーになっているもの」があげられた(表4)。

表4 希望教材

希望する教材	人	%
パワーポイントによる資料	231	77.3
指導案	195	65.2
ワークシート	160	53.5
リーフレット	88	29.4
その他	21	7.0
現在のものでも充分	14	4.7

(3) 性に関する指導を実施していない教員の結果

「性に関する指導」の研修会での調査だったため、性に関する指導を実施していない教員が少なかったが、実施していない教員8名の内訳は、養護教諭4人(50.0%)、保健体育科教諭2人(25.0%)、一般教諭2人(25.0%)であった。

実施していない理由として、「子どもにとって必要だと分かっているけどやることが多い」や「知識不足を理由に実施できていない」状況だとわかった。その他では、「どう教えていいかわからない」、「指導書がない」、「バッシングの時期以降なかなか積極的にできない」、「保健室の業務だけで手いっぱいだから」という理由があげられた。

4. 考察

子どもたちが、生涯にわたって健康な生活を送るためには、健康に関する正しい知識を習得させるとともに、思考力や判断力を育て、生涯を通じて健康な生活を営むことのできる資質や能力を育てることを目的とし、保健教育を中心として教育活動全体を通じて推進を図ることが

重要である。

性に関する指導を実施するにあたっては、児童生徒等の発達段階を踏まえ、実態に応じた指導が必要であることから、全教職員の共通理解のもと校内体制を整えるとともに、学校全体の指導計画に基づく組織的、系統的な指導を行うこと、また保護者の理解を得て集団指導と個別指導を効果的に組み合わせ、指導の充実を図ることが重要となる¹⁰⁾。

近年、都市化、少子高齢化、情報化、国際化などにより、子どもを取り巻く社会環境や、生活環境は大きく変化している。

また、「身体的、生理的な発育発達が早まっていること」や「性に関する意識や価値観が多様化していること」、「性に関する情報の入手が容易となったこと」などから、性に関する課題は多種多様であり多岐にわたっていると言える。

子どもたちが、それらの「性に関する課題」に対応するためには、正しい知識を身に付けるだけでなく、自ら考え適切な意思決定と行動選択できる力を育むことが重要であり、また、自己や他者を認め尊重する態度の育成が不可欠である。

性に関する指導を通じて、一人ひとりが自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重すること、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、よりよい人間関係の育成を図ることは、これからの時代に求められる資質・能力の育成につながるものと言える。

本研究より、性に関する指導を学校現場で進めるために、2つの課題を見出した。1つ目は、教員自身の課題である。2つ目は、外部講師の性に関する指導が学校現場で求められているが、推進できていない状況である。

1つ目の教員自身の課題では、今回は「性に関する指導」の研修会での調査だったため、性に関する指導を行っていない教員が低率であったが、行っていない理由は、性に関する指導についての勉強ができていないが5割と多かった。これは、自由記述により、性教育パッケージが行われて以来、学校現場で積極的に性

教育が行われなかった背景があるとわかった。年齢の若い教師は、自分の子ども時代に積極的な性教育を受けてきていないため、どのようにすればいいかわからないということが挙げられる。

また、現在の学習指導要領には膨大な学習カリキュラムが組まれているため、性に関する指導について教師自身が勉強している時間がないということもあげられる⁹⁾。教員が性に関する指導について学ぶためには、学校内では養護教諭や保健主事、性教育主任が連携して、教員に向けた性に関する指導の研修会や子どもたちを対象とした性に関する調査を行なうことが有効だと考える。

学習指導要領解説（特別活動編）では、思春期の心と体の発達や性については、「個々の生徒の発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、教職員が、集団指導と個別指導の内容を整理しておくなど計画性をもって実施する必要がある。また、指導の効果を高めるため養護教諭やスクール・カウンセラーなどの専門的な助言や協力を得ながら指導することも大切である」と記載されている¹¹⁾。

養護教諭は、健康相談等を通して、一般教諭より学校全体の子どもたちの性に関する実態を把握していると考えている。養護教諭が子どもたちの性に関する実態を学校保健委員会等で情報発信し、性に関する指導の必要性を訴えていくことが求められる。例えば、学校保健委員会で性に関する指導についての研修会を行ったり、産婦人科医等を招聘し講演会を行なうことで、学校内で教員が性に関する指導についての研修を深めることが大切である。

2つ目の課題は、外部講師による性に関する指導が学校現場で求められていることである。調査結果から、性に関する指導の授業者のうち外部講師は、約3割であった。現状では、外部講師による授業があまり進められていないと考える。

2019年3月16日に、東京都の都議員は、東京都議会本会議で「不適切な性教育が行われている」と足立区の中学校で行われた人権教育の一

環としての性教育を批判した。東京都教育委員会はそれに対し、「検証を徹底的に行い、適切に実施されるよう指導する」と答弁した。しかし、半年経った9月11日の毎日新聞¹²⁾の記事によれば、都教委は「同校の指導内容に変更を求める考えはない」とし、授業を容認する姿勢を示した。これは、都民の「中学生にも性交、避妊、人工妊娠中絶、性感染症、性暴力等、大切なことをしっかり教えるべき」という圧倒的な世論に押されての結果とみるべきだろう。

こういった世論(=保護者)の期待に答えるには、今すぐの対応としては外部講師による性に関する指導が考えられるが、長野県の教育委員会¹³⁾の報告では、外部講師の活用について、「講師の手配、謝金、授業時間の確保等に困難があり、積極活用できていない」、「学校からの要望は伝えやすいが、児童の実態を伝えることが難しい」、「講師に関する情報が不足」、「事前に打ち合わせの時間が十分に取れない」、「事後の指導時間も取れない」などといった課題が挙げられている。以上のような課題は、今回の調査の自由記述にも同様のことが書かれていた。これらの課題の解決策には、それぞれの学校の工夫が求められることが現状である。授業時間の確保については、学習指導要領に則って授業を行っているため現実には厳しい状況である。しかし、講師の情報が不足しているということについては、養護教諭がコーディネーターとなり地域の医療機関と連携を図ることで解決できると考える。教員と外部講師をつなぐことは養護教諭の大切な役割の一つである。外部講師による性に関する指導は子どもたちの身体を守るために、有効な手段だと考える。養護教諭は、学校の中で一番の身体の専門家として、性に関する指導を推進していかなければならない。そのため、養護教諭は常に最新の情報を取り入れる努力をすべきである。学校内の連携を進めると、全教員で子どもたちの性の実態を把握することができる。これが、性に関する指導の前段階の中で最も大切だと考える。性に関する指導は、子どもの実態や発達段階に合わせた内容を行なうことが適切である。

今回の調査は、A市が「性の多様性」については人権教育として扱っているため、調査項目には入れていない。しかし、アンケートの自由記述の欄に、「LGBTQの子どもたちのことも配慮しながら指導を行っていきたい」と書いた教員が多くいた。近年、性に関する指導において、新たに出てきた課題の一つが「性の多様性」である。文部科学省は、2013年全国小中高等学校及び特別支援学校を対象とした「性同一性障がいの実態調査」¹⁴⁾を行ない、翌年調査結果から性同一性障害に係る相談が606件あったことを公表した。小学校でも93件(15.3%)、中学校110件(18.2%)、高等学校403件(66.5%)であり、小学校の低学年の回答でも26件(4.3%)もみられ、様々な学齢での困難感を抱える児童生徒が存在することが明らかになった。「性の多様性」は、教員が実体験として経験していないことが多いと考えられるため、指導はさらに難しいと考える。性に関する指導を行なう中でLGBTQの子どもたちが傷つかないように細やかな配慮が必要である。このように、性に関する指導はこれからの時代にとっても重要な教育のひとつである。養護教諭が学校の中心となり性に関する指導を進めていく体制を整え、子どもたちの将来の心身の健康だけでなく、自尊心や相手を思いやる気持ちの発達に尽力して行く必要があると考える。

5. まとめ

A市教育委員会主催の研修会に参加した教員を対象に、性に関する指導について調査したところ以下の結果を得られた。

- ① 96.0%の教員が性に関する指導を行っていた。
- ② 教育内容は、思春期の体の変化や命の誕生など教科書に書かれている内容が多く、性加害や性行為など教科書に書かれていない内容は実施している教員が1割以下であった。
- ③ 教員が希望している教材は、パワーポイントや指導案、ワークシートであり、その他の記述で、外部講師の紹介リストという回答が見られた。

- ④ 性に関する指導を行っていない教員の理由は、「どう教えていいかわからない」などの教員自身の問題と「他のことを教える時間や業務で手一杯である」という教員の環境の問題が挙げられた。
- ⑤ 教員が性に関する指導を実施できるようなDVD教材や指導案、パワーポイントが求められていた。

謝辞

アンケートに快くご協力いただきましたA市の教員の皆様と、教育委員会の皆様に感謝いたします。

文献

- 1) 文部省社会局通達：純血教育の実施について、1947、文部省。
- 2) 山本信弘，大道乃里子，戸田百合江 他：性教育の歴史的変遷の文献的—考察，大阪教育大学紀要第V部門，1991，39（2），pp. 203-215。
- 3) 文部省編：学校における性に関する指導の考えかた・進め方，1999，ぎょうせい。
- 4) 思春期のためのラブ&ボディBOOK，2000，〈<http://www.anti-freelove.net/data/landb-s/landb-s.html>〉
- 5) 金崎満：検証 七生養護学校事件～性教育攻撃と教員大量処分の真実～，2005，群青社。
- 6) 性感染症報告数：厚生労働省。〈<https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>〉
- 7) 健やか親子21 最終評価報告書：「健やか親子21」における目標に対する暫定直近値の分析・評価，2003，厚生労働省。
- 8) 日本学校保健会：学校保健の動向—平成23年度版，2011，日本学校保健会出版部。
- 9) 中央教育審議会答申：幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号），2016，文部科学省。〈https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf〉
- 10) 一人ひとりの生と性～「性に関する指導」について～，2019，大阪府教育委員会。〈<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2470/00318823/HP10%20zenntai.pdf>〉
- 11) 学習指導要領解説：特別活動編，2017，文部科学省。〈https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_013.pdf〉
- 12) 毎日新聞：2018。〈<https://mainichi.jp/articles/20180912/k00/00m/040/101000c>〉
- 13) 性に関する指導の手引き：2018，長野県教育委員会。〈<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/hoken/seinotebiki/seinotebiki.html>〉
- 14) 学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について：2014，文部科学省。〈https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1322368_01.pdf〉